（別紙6－1）

# 学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長　殿

【授業担当者】

所属/職名: 農林水産学研究科・准教授

氏　名: 石崎宗周

| | |
|---|---|
| 授業科目名 | Tropical Fisheries |
| 研修先<br>（大学・国・都市名） | フィリピン大学ヴィサヤス校（フィリピン・イロイロ/ミアガオ）、SEAFDEC AQD（フィリピン・ティグバワン）、JICAフィリピン事務所（フィリピン・マカティ） |
| 研修期間 | 令和 5 年 7 月 22 日 ～ 令和 5 年 8 月 2 日 |

［研修の目的・概要］

目的:地域の農・水産関連産業の国際化や活性化に貢献できる人材育成を目的とし、「1. 国際的理解の基盤となるコミュニケーション能力の向上」と「2. グローバル視点・途上国視点・地方視点による問題解決能力の向上」を図る。
概要:渡航前に海外での安全な活動に必要な基礎を学習し、実渡航時に実施する現地学生との協働によるミニリサーチの計画を行った。渡航中は、フィリピンの水産業の概要に関する英語による授業を受講し、UPV学生と協働でミニリサーチ活動を行い、また、地域の水産物流通に関する現状や水産分野の研究内容を理解するためのスタディツアーを行った。JICA事務所では、国際協力事業の概要とバリューチェーンの改善に関する取組について解説をうけた。研修全体を通し、海外での活動に必須な危機管理能力を高めた。

〔研修の成果〕 ＊事前・事後学習も含む。研修の目的や学習成果の達成状況について、また地域のグローバル化や活性化に資する人材育成の観点からの成果についても記載して下さい。

「1. 国際的理解の基盤となるコミュニケーション能力の向上」:JICA事務所での説明を含め、渡航先でのコミュニケーションはすべて英語で行われ、英語によるコミュニケーション能力を自己評価することができた。自分の能力が、これまでの学習成果として十分に対応するものと評価した学生や、逆に自己表現において能力不足を実感した学生もいた。食事や移動中の会話では、能力の問題点や今後の取組・抱負についてのやりとりが聞こえ、その内容から今後の能力向上に向けたロードマップも策定されたと理解された。
「2. グローバル視点・途上国視点・地方視点による問題解決能力の向上」:フィリピンの水産業の概要に関する授業の受講や、マニラ近郊の公設市場やイロイロおよび周辺地域の公設市場の視察、現地学生とのミニリサーチ活動により、途上国の水産物流通や利用の現状を理解し、地域でのリサーチ活動に必要な能力を理解・修得した。ここで得られた知識や能力は、日本の水産物流通・利用において将来生じる問題検知やそれに対して解決するのに必要な基礎知識・能力として活用され、地域産業の世界展開や発展に必要なアイディア策定にも必須となる人材の能力涵養が行えたと考えられる。
天候不良により一部の内容を変更したが、その判断根拠の解説と理解により、あらかじめ設定した2つの目的の他に、途上国でのリサーチ活動に必須の安全確保能力を深く体得することができ、研修の目的を十分に達成することができた。

〔今後の課題〕

今回参加した学生は2名であったことは、現地学生との協働リサーチ活動ではほぼ一対一対応であり、また移動中に担当教員から適宜発せられた解説や指導が多人数の場合と異なり効果的に伝えられ、研修効果を大きくする効果があったと考えられるが、一方で、参加学生間の多様な考え方や取組についての共有やこれに基づく発展・展開の面では研修効果が限定された。参加学生の増加が課題としてあげられる。航空賃や活動経費の高騰により、参加しにくい状況になっているのであれば、学生への渡航支援のみならず、プログラム実施に必要な経費の支援も必要であると考える。渡航前にオンラインでの授業提供やリサーチ活動の打合せを充実させ、現地でのミニリサーチ活動を充実することも試みたが、授業の関係もあり十分ではなかった。今回は天候に恵まれず、視察予定を変更したため影響は少なかったが、対応法を検討する必要がある。